山形県作業療法士会 広報誌

Vol.6







病気の影響で日常生活が不自由となってしまったSさん。つらかった時期を乗り越え、自分の役割で あった『料理』に再び挑戦することで、少しずつ笑顔を取り戻すことができました。今回は訪問リハビリ でSさんを担当した作業療法士の秋久保さん(以下OTと表記します)を交え、訪問リハビリ開始当初か ら現在に至るまでの取り組みや、今後の目標等についてお話を聞かせて頂きました。

(聞き手;広報部・黒坂)

- **寒 最初に訪問リハビリを始めた時はどのような状況** だったんですか?
- 会員子ども3人いたけど、(病前は)全部料理は私がする るっけの。掃除して、弁当作って。ちゃんとお父さん にも。そうしてきたのが、ピターっとさんねぐなっ たんだべ。まして、歩けないべ。最初なんて泣きっ ぱなしで…。びじゃびじゃになるくらい泣いたんだ よ。

だから、下で笑った声とか、いろんなお客さんの声 とかがすると、下に行けないべし。悔しくてよ。

、 すごくつらい思いをされてたんだなぁというのが 伝わってきました。そういった想像をしてから今 のお姿を見ると、何かあったんだべがなぁ…と思 うのですが、なにか、秋久保さんと頑張ってきたこ ととか、具体的にあれば教えていただければと思 います。

- of 初めてお会いしたときは、どうしても涙が止まら なくって、でも、歩きたいという気持ちとご家族の ために何かしたいっていうお気持ちがすごく強く て…。まず、やれることからやってみよう!というこ とで、一番最初は、お父さんの理容室のタオルた たみのお手伝いから始めました。その後は、食器 洗いで、立って、洗って…
- 🔝 シンクに、寄り添うと、立てたっけの。いろいろ考え てくれて。
- on Sさんもいろいろ頑張ってくれて。次なにや る一?って、作戦会議を常にしてました。洗濯物も 干せるようになって。

昨年あたりに、やっぱり今まで子供たちの食事を3 食全部ずっと担ってきたのを、もう一度やりたいっ ていう、強い思いがあったので、じゃ、料理をしてみ よーって。

長男が、あの煮物、食べたいっていうことだったの。

その後(病後)は、ほとんど、お父さんが作ってたから。

- ∰ うんうん (頷く)
- そこからケアマネジャーさんにも相談をして、ヘルパーさんを入れて連携を取りながら、本格的に1品ずつ調理練習をしていこうと。

ヘルパーさんも、切り方とか、環境のことが不安なので、まず作業療法の時に今日のメニューに対しての注意点とかを連携ノートに書かせていただいて、ヘルパーさんからも実践結果を記録していただいてました。今は皿洗いとかは問題なくご自分でされていて、料理も連携ノートで確認しながら週に一回程行ってます。

- みんなで一緒に頑張られたんですね。お父さんとしてはどうですか?できなくて悲しいっていう時期があったんですけれども、今、頑張って洗濯物したりとか、お料理をこうやって作って下さる姿を見て…
- んだねぇ…料理決めんのが大変でねぇ。水曜日あたり言い争いになるんだ。(笑)
- (笑)
- 働んだぁ。主にこっち(Sさん)だけどよー。
- お父さんは、どっちかっていうと、次の日も食べれるもの、いいのね。
- (歌 ねぇ、(次の日の)朝のごはん、ちゃんと作らねたっていいもの。
- (笑)
- ☞ 孫ちゃんからのリクエストも時々あるんですよね。
- (3) んだぁ。孫も、給食の、お便り、持ってくんの。ばー ちゃんこれ作ったらって。

- 孫。ねぇー。よく考えて。
 孫の時は…、ポトス…。
- of ポトフ?
- (美) ポトフ。(笑) なんか、いっぱいなって、食べきれないって、言ったんだっけか…(笑)
- (笑)
- 娘は必ず、これ(グーサイン) すんの。言葉より、これの方が、嬉しい。お母さんの(料理) これだよ(グーサイン)って言ってけんだな。
 これで、ありがたいんだもんね。作ったかいあっ

これで、ありがたいんだもんね。作ったかいあったな。

- **⇒ ぜひ、これからの抱負といいますか、なにかあれば教えていただければ…**
- 多歩くこと、家事はもちろんなんだけど、あと、スーパーまで歩く。
- 可買い物でまずは卵を買いたいって話してたんですよね。
- なるほど、すでに目標があるんですね。これから もぜひ協力して頑張っていってください。今日はお話いただきありがとうございました。



人は「作業」をすることで 元気になれる

"通いの場"の活動を支援します!

通いの場における自立支援型プログラム策定事業 協力員 三原裕子

住み慣れた地域で、みんなが元気に暮らしていけるように、 地域の方々の自主的な集会や、ボランティアの協力で運営している"通いの場"の活動を支援する取り組みを行っています。リハビリは病院や施設で行われるもの、というイメージがあると思いますが、普段皆さんが行っている地域活動の中にもリハビリの視点を取り入れて健康に役立てようというものです。作業療法では"人は作業をすることで元気になれる"という考え方で、日常生活の中の、その人にとって意味のある行為や



5m通常歩行速度測定

好きな活動を続けるための支援を提供し、地域の皆さんが自分らしい暮らしや心身の健康を維持できればと考えます。

これまで通いの場の活動として、体操教室や認知症講座などで講師として伺い、お話したり、一緒に体操したりしてきました。通いの場の活動として、専門家の話を聞いたり、いろいろ質問したりして勉強することも楽しいし、大切です。でも、話を聞いただけではなかなか実際の生活には生きてきません。

そこで、県では、運動や生活、栄養やお薬、お口の健康などいろんな分野の元気をサポートする、自分たちでできるプログラム (活動メニュー)を作ろうとしています。栄養士、薬剤師、歯科衛生士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士が参加して、平成29年度の春から相談し、秋から実際に試してもらって意見を伺っているところです。作業療法では、日常の生活行為を行いやすくするための運動や道具の工夫、認知症予防のための頭と体の体操など、個人の希望や目標に向けて行うものと、みんなで活動するための段取りや社会資源の利用など、集団活動を支援できるものを作りたいと考えています。自分がやりたいこと、みんなでやりたいことなど、目標をもって取り組むことは、楽しみもやりがいも、その効果もとても大きくなるのではないでしょうか。一緒に活動していく方々との輪を広げて、子供からお年寄りまで、みんなで楽しく活動していけるような、そんな地域づくりに繋がる支援ができるようにがんばります。



ソーラン節体操



コグニサイズ

運転と作業療法委員会の紹介と活動報告

運転と作業療法委員会 山形県協力者 佐藤貴士

1. 委員会の背景と概要

重大な事故が起こるたびに高齢者あるいは脳損傷者の自動車運転に関する関心が高まっている。身体障害に比べ脳損傷の場合、安全な運転再開に関する評価方法と基準が明確でない状態が続いていた。この状況の中で多くの作業療法士(以下OT)が自動車運転再開の評価・支援の必要性を感じ、取り組みを広げ始めている。また、2016年度の診療報酬改定では、"生活機能に関するリハビリテーションの実施場所の拡充"として、初めて「自動車の運転等の訓練」を算定対象とした。高齢者及び障害者の自動車運転に関する社会的関心の高まりとOTの社会的役割と責任を受けて、日本作業療法士協会は2016年4月、特設委員会「運転と作業療法委員会」を設置し、47都道府県士会に協力者を配置した。2年の活動期間を更に3年間延長し、「地域における移動支援の専門職」であるべきOTが、自動車運転を中心とした移動支援を適切に展開できるための土台づくりを目的に活動を始めている。

2. 活動内容

活動の柱は①基準の作成②運転専門OTの研修・認定システム企画開発③運転に関する実態調査及び研究④関係諸団体への啓発・協力関係構築である。2016年度診療報酬改定に伴い、運転支援に関する枠組みが必要であり、優先的に『運転に関する作業療法士の基本的考え方』の作成に取り組んだ。

3. 『運転に関する作業療法士の基本的考え方』

今回の版では、基本的に研修会のテキストとして扱われている。運転に関する作業療法を行ううえでの基本的な知識・考え方と要点としてまとめられています。(図1)今後の関係法令改正等により改訂版の検討もしている。

4. 今後の課題

他県の各OT士会でも運転支援状況について似たような悩みを抱えている中、秋田では免許センターに看護師を配置し、OTも含め定期的な会議が行われて

- 1. 概説
- 2. 運転に関する作業療法士による支援の進め方
 - 2-1 運転に関する支援の流れ
 - 2-2 運転免許の条件
 - 2-3 医学的評価
 - 2-4 身体機能評価
 - 2-5 視機能評価
 - 2-6 認知機能・神経心理学的検査
 - 2-7 ドライビングシミュレータによる評価
 - 2-8 患者・家族教育について
 - 2-9 静的実車評価
 - 2-10 動的実車評価(場内)
 - 2-11 動的実車評価(場外)
- 3. 各領域での運転に関する支援
 - 3-1 運転支援時期に関わる特記事項
 - 3-2 高齢者
- ・別表
- ・略語集
- ·関係法令

図1 運転に関する作業療法士の基本的考え方





いたり、宮城では県士会で運転に関する委員会を立ち上げる活動を始めている。

今後は、運転支援をしている県士会のOTに『基本的考え方』について広めていくこと、県警免許センターや教習所との連携、県内の運転支援情報を「見える化」することにより、運転支援の必要な対象者が確実に支援を受けられるようにしていきたい。

わたしの町の作業療法士

File.06

作業療法士を目指したきっかけはなんですか?

作業療法士の仕事を紹介している番組を見たこと がきっかけです。活き活きとした表情で楽しそうに目 標に向かって作業療法をする患者様の表情を見て、 私も作業療法士を目指したいと思いました。

今はどんなお仕事をしていますか?

病院に入院されている急性期・回復期・維持期の患 者様を対象に作業療法を行っています。それぞれ退 院先や目標は異なりますが、患者様やご家族様が希 望される生活に近づくことができるよう支援をさせ ていただいています。



三原美咲さん

やりがいは?

以前はできなかったことができるようになり、患者様やご家族様が喜んでいる姿を見た時、心の中で喜 びを感じています。「その人らしい」生活を送ることができるよう、今後も頑張っていきたいと思います。

File.07

作業療法士を目指したきっかけはなんですか?

私が高校生の頃、祖母が脳梗塞を患いました。そこで初めて作業 療法士の存在を知り、祖母に接するその姿を見て、カッコいいな と思いました。生活を支える専門家、とても魅力を感じました。

今はどんなお仕事をしていますか?

障害を持ちながら生活されてる方が、住み慣れた家や地域でそ の人らしい生活を送ることができるよう、自宅等へ訪問し作業療 法を行っています。生活上の工夫や使用する道具・環境面への 助言、精神的サポート、自分でできる運動の指導等、ご家族様や 生活支援に関わるたくさんの専門スタッフとの連携を図りなが ら支援を行っています。



湯口翔太さん

やりがいは?

やはり、利用者様が少しずつ元気になっていく姿を見ることができると、やっていてよかったなあと思い ます。利用者様が前向きになり、「この間はこれができた」と笑顔で話してくださると、とても嬉しい気持 ちになり、私自身も元気をもらっています。

毎年夏に作業療法体験見学会を開催しています。興味のある方はぜひ参加してください。

現場で活躍する作業療法士に聞きました!

私にとって作業療法とは…































まんが 認知症になっても山形で暮らしたい!!

~わたしたち作業療法士も、様々な活動に参加しています!~















※まんがの中に出てきた活動に関しては、山形県作業療法士会ホームページにも情報を掲載しています。また、「ほっOT!」のバックナンバーにて一部の活動内容を紹介しています。こちらも同ホームページ上で閲覧可能ですので、興味のある方は是非ご覧ください。



広報誌「ほっOT!」について ~作業療法の由来と特徴?~ ("ほっと"と呼んでください)

旧来より、人間は様々な「作業」をすることでその営みを発展させてきました。18世紀になるとそれを治療的に利用するようになり、その取り組みから作業療法「occupational therapy」が生まれています。

現代では作業療法に求められることも多様化しその治療は様々になってきていますが、「作業」本来の持つ効果を生かしていることには代わりありません。例えば、手工芸や木工のような生産的な作業や、日常生活上の様々な動作、音楽やゲーム、遊びのような活動も治療の手段になります。好きな作業や遊びなどを通して、気分が落ち着いたりさわやかな気持ちになったことはありませんか?「作業」にはそんな不思議な力があるのです。そんな作業療法が抱く、温かさ、ほっとするところを感じていただけたらとの想いから、本誌名を『ほっOT!』と名付けました。「ほっOT!」 今後ともよろしくお願いいたします。



今年度は広報部メンバーの入れ替わりなどがあり、活動の慌ただしい時期もありましたが、なんとか「ほっOT!」を発行することがで

きました。本誌作成にあたりご協力いた だいた方々には大変感謝しています。 今回で第6回となりますが、県士会の

今回で第6回となりますが、県士会の 取り組み紹介やお馴染みのコーナーな ど、広報誌として充実してきているので はないかと感じています。

これからも作業療法を身近に感じても らえるよう、広報誌で楽しく発信していけ ればと思います。



-般社団法人 山形県作業療法士会

http://yamagata-ot.jp \[\text{[\$\varantering OT!} ON!\\ \no \text{OT!} \] ON!\\ \no \text{OT!} \] ON!\\ \no \text{OT!} \] ON \[\no \text{OT!} \] ON

『作業療法士は皆さんの身近な病院や施設で働いているリハビリの専門家です』

表紙モデル/日野澄恵さん、寒河江春樹さん(作業療法士) 写真は通所サービスで集団体操を行っている一場面です。